

# 6月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 梨栽培 武藤春香

## 行った主な活動

### ■ 二次摘果

一次摘果で取り忘れた果実や、新たに黒星病にかかった果実、期待していたほど大きくならなかった果実を摘果した。毎日少しずつ果実が大きくなり、降雨後は特に肥大が進んでいた。



### ■ 就農予定地の種まき

水はけを改善する目的でひまわりを播種した。播種後、トラクターで浅く耕耘して土をかけた。地域おこしのPR、農業への関心を広めることを目的に種まき体験イベントを行った。



## 活動を行った感想など

摘果の取り忘れはかなり少なくなり、作業のスピードが速くなってきた。一方で形の悪いものや小さいものを残してしまうことがあるのでより厳しい目で選抜できるようになりたい。着任前から農業体験をしたいという思いがあったので、「ふれあい農園」と称し、ヒマワリの播種体験会を試験的に実施した。告知期間が短かったため参加者は少なかったが、楽しかったとの感想をいただいた。駐車場の確保や保険の加入、準備物、段取りなど必要なことが一通り把握できてよかった。

## 今後の目標など

農家研修で学んだことと自宅学習で学んだことを整理し、自分の畑の栽培方法の方針をまとめる。

酸性粘土質土壌・水はけの改善について、書籍やほかの生産者から情報を収集して就農予定地の土壌改良を行う。

補助事業申請の都合上、9月までに畑の作付け計画を完成させる。

# 6月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 梨栽培 石原 恭

## 行った主な活動

### ■ 協力隊初任者研修

水戸市民会館にて開催された初任者研修に参加。講師の鍋島悠弥さんから、協力隊として活動する上での基本的な知識やスキル、地域の特性を理解し円滑に活動する方法についての説明をしていただいた。ランチ交流会では、OBOGの方々と一緒に昼食を取りながら、彼らの経験や移住後の生活について話を聞くことができた。



### ■ 摘果

果実の品質を向上させるために、不要な果実を摘み取った。摘果の際には、適切な間隔を保つことを意識した。摘果することで、残った果実に栄養が集中し、より大きくて美味しい梨が収穫できるようになる。



## 活動を行った感想など

初任者研修を通じて地域おこし協力隊としての基本を学び、多くの有益な情報を得ることができた。また、他の隊員たちと交流を深め、これからの活動に向けての意欲を高めることができた。

摘果は、どの果実を摘み取るかの判断が難しく、もっと経験を積む必要があると感じた。

## 今後の目標など

梨栽培の知識と技術を深めるため、定期的な研修や勉強会に参加し、新しい技術や知識を取り入れていきたい。また、他の農家との交流を通じて、実際の経験から学び、実践的なスキルを向上させ、地域社会にも貢献できるような農家を目指したい。

# 6月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 ぶどう栽培 鈴木駿也

## 行った主な活動

### ■ 摘粒

ぶどう一粒が10円玉ほどの大きさになるので、粒同士が押し合って潰れないように、ハサミで余分な粒を間引く。



### ■ 摘芯

枝が伸びすぎると、枝の生長に栄養が使われてしまい、実に栄養があまり送られなくなるため、伸びすぎた枝の先端や余分な枝をハサミで切り落とす。



## 活動を行った感想など

摘粒はぶどうの見た目が決まる大事な作業だが、粒が大きくなることを想像しながら行うため、難しくて上手くいかないことも多い。安定して上手くできるように技術を磨きたい。

摘芯は品種によって切る長さが違うので、間違えないように気を付ける。

研修先の農園では、房数が多かったり、枝が入り組んでいる場所があったりして、摘粒や傘かけをやり忘れてしまった部分があった。作業終了後にやり忘れがないか確認するようにする。

## 今後の目標など

規模が広く、ハウスがたくさんあるため、どのハウスに何の品種があるか早く覚えるようにする。

できるだけ早く空いている圃場を見つけて、独立できるように情報集めをする。